

## 2023年度

評価受審年度 2017（平成 29）年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11

本年時報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

### はじめに

本学医学部医学科は、平成 29 年に日本医学教育分野別評価機構による医学教育分野別評価を受審し、平成 30 年 9 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

評価結果を受け、各領域全体の評価項目において点検・改善を行い、特に「良い点・特色ある点として評価された項目（特記すべきよい点（特色）」及び「今後改善が見込まれる項目（改善のための助言）（改善のための示唆）」について、医学教育全体の継続的改善を行っている。本年度の年次報告書は医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、令和 4 年 9 月 1 日～令和 5 年 8 月 31 日を対象とし作成した。

また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

## 【領域 1】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
「医療の谷間に灯をともし」を目的に、全国都道府県が設置した医学部として使命を定め、使命から 3 つのポリシーや学修成果を明確に規定している。使命には、社会からの要請が明示されているだけでなく、医学部が社会に対して持つ責任も明示されている。	
さらに推進した点	
今年度見直しを行い、社会から要請される研究能力について新たに加える改訂を行った。	
今後の計画	
定期的に見直しを行っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 医学部のミッション（使命）	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	

「医療の谷間」は国内だけではない。開学当初は国内の地域医療に重点を置いていたが医療の谷間としての国際保健についても検討を開始している。
<b>さらに推進した点</b>
長期計画において、「アジア地域を中心とする国外での地域医療の推進にも貢献する。」の文言があり、卒業生の将来についても国際医療をはじめ様々な活躍の場があることを広報でも言及することとした。
<b>今後の計画</b>
学内、学外へ発信していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.1 使命</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学研究の達成をどのように使命に組み込むか、さらなる検討が望まれる。特に自治医科大学の使命との整合性の検討が課題となる。	
<b>改善状況</b>	
自治医科大学医学部のミッション（使命）の第2項目の中に、医学研究の表現を組み込み、令和5年4月にミッションの改訂を行った。	
<b>今後の計画</b>	
定期的に見直していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料1 医学部のミッション（使命）	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.2 大学の自律性および教育・研究の自由</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
設置母体である都道府県からの意見を聞きながら、教務委員会が組織自立性を持って、カリキュラムの作成、教育資源の配分を行っている。	
<b>さらに推進した点</b>	
それぞれ年1回実施される都道府県主幹課長会議、入試担当者会議において、教務委員長が大学のカリキュラムや学生評価について説明を行い、都道府県担当教員が都道府県ごとの個別協議において意見交換の機会を持っている。卒業生の様子等も参考にしながら、教務委員会が自立的にカリキュラムの作成や教育資源配分を行っている。令和5年度は、コロナの感染状況が落ち着き、6月の主管課長会議は3年ぶりに対面での実施が実現した。	
<b>今後の計画</b>	

継続していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料2 令和5年度都道府県自治医科大学主管課長会議次第

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.2 大学の自律性および教育・研究の自由</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
学生にとって学びやすいカリキュラムをモットーに、学生からの意見を重要視しながらカリキュラムの検討を行っている。	
<b>さらに推進した点</b>	
令和5年7月18日に開催した教務委員会の下部組織であるカリキュラム評価部会において、現在のカリキュラム評価および問題点を整理し、同年7月20日に開催した教務委員会において状況を共有した。引き続き、学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会を原則月1回開催している。全学年へのディプロマポリシーのマイルストーン自己評価と同時に、カリキュラム評価アンケートをMoodleを用いて実施した。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、カリキュラム連絡協議会において、学生の意見を吸い上げ、その改善案についてもカリキュラム連絡協議会を通じ学生にフィードバックし、意向を確認する。また、カリキュラム評価については、IR部門で解析を行い、科目責任者や教務委員会へフィードバックし、次年度以降のカリキュラム改善に活かしていく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料3 令和5年度第1回カリキュラム評価部会議事次第 資料4 令和5年度カリキュラム評価部会委員 資料5 教務委員会議事次第（令和5年7月20日開催分） 資料6 令和5年度カリキュラム連絡協議会部会員名簿 資料7 令和5年度カリキュラム委員一覧 資料8 カリキュラム評価アンケート（講義・実習・演習）	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位授与の方針であるディプロマ・ポリシーに、卒業時のアウトカムである「学修成果」としてのコンピテンスとコンピテンシーが記載されている。</li> <li>・在学中に学生が段階的に資質・能力を涵養できるように、学修成果の下位領域を中項目、小項目として明確に記載している。</li> </ul>	

・卒業生の社会的責任が明確に学修成果に記載されている。
<b>さらに推進した点</b>
令和4年度にディプロマ・ポリシーを改訂し、大項目の3つ下に、中項目、分かりやすく項目数を減らした各6項目の小項目を設定した。それぞれに3段階のマイルストーン評価を設定し、Moodle上にルーブリック評価表を作成して段階的な獲得が評価しやすいようにした。卒業生の社会的責任については、生涯学習や地域医療の大項目での地域のリーダー等の表現で記載している。
<b>今後の計画</b>
学修成果の獲得の指標としてのマイルストーン評価の有用性について、IR部門で解析していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料9 自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー 資料10 ディプロマ・ポリシーとマイルストーン

### 改善した項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
「学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に習得させなければならない」ことを明確にするために、「行動規範」を作成すべきである。	
<b>改善状況</b>	
平成31年に制定した「行動規範」については、毎年4月に実施している教務委員会オリエンテーションにおいて全学生に周知し、学生便覧にも掲載し、毎年4月に学生に配布している。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、学生に対し周知徹底を行うとともに、必要が生じた場合は現状に合わせ改訂していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料11 医学部学生の行動規範・行動の指針	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
卒前教育に続く卒後臨床研修との接続性について、学修成果への記載を検討すべきである。卒前教育、卒後研修の8年間の医師養成を通じて、卒業生が自治医科大学の使命を果たすためのトレーニングが重要であることを明記すべきである。	
<b>改善状況</b>	

令和4年度のディプロマ・ポリシー改訂に際し、「大項目Ⅱ」の下の中項目で、科学的探究と生涯学習を身につけることを新たに設定し、卒業後のトレーニングについて言及した。
<b>今後の計画</b>
ディプロマ・ポリシーの妥当性について、マイルストーン評価と卒業生の実態をIR部門で分析し、検討を行う予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料9 自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー

### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学研究に関する学修成果の設定を検討することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
令和4年度にディプロマ・ポリシーを改訂し、「大項目Ⅱ」の医学・医療における専門知識・技能、中項目に総合医としての問題解決と科学的探究を設定した。改訂したミッションにも研究についての文言を入れた。相当するマイルストーン評価項目としても、臨床実習前までにリサーチマインドを持つこと、卒業時研究手法を理解し実践する力を身につけていることを定めた。これに基づき、令和4年7月と令和5年2月に、学生全員と担当教員によるマイルストーン評価を実施した。	
<b>今後の計画</b>	
定期的に見直す。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料9 自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー 資料10 ディプロマ・ポリシーとマイルストーン	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.4 使命と成果策定への参画</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
教務委員会が医学部の使命や3つのポリシーを提案し、これに対して全教職員と学生を対象にパブリックコメントを集め、全学で協働して使命を作成したことは高く評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
医学部のミッション（使命）の改定案について、教務委員会にて承認し、令和4年11月28日から12月16日まで全教職員、全学生を対象としてパブリックコメントを求め修正した。その後、令和5年1月26日に開催された教育に関わる主要メンバー（学長・副学長・教授・准教授等）が出席する医学部教授総会にて	

承認された。
<b>今後の計画</b>
定期的に点検する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料1 医学部のミッション（使命）

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.4 使命と成果策定への参画</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
全国都道府県、卒業生などのステークホルダーから幅広く意見を集めていることは高く評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
令和4年10月8日に自治医科大学顧問指導・学外卒後指導委員合同会議を開催し、顧問指導委員と学外卒後指導委員との交流、連携を図った。また、令和5年6月5日に都道府県自治医科大学主管課長会議を3年ぶりに対面で開催し、全国都道府県と大学で活発な意見交換を行った。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料12 自治医科大学顧問指導・学外卒後指導委員合同会議日程表 資料2 令和5年度都道府県自治医科大学主管課長会議次第	

## 【領域 2】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.1 プログラムの構成</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習を4年次から開始し、十分な期間を定めていることは高く評価できる。</li> <li>・少人数グループ学習、basic PBL や症例基盤型学習などの学習意欲を高める授業方法を多く取り入れていることは評価できる。</li> <li>・学生寮を活用した協働学習は、学習意欲を高める学習環境として、高く評価できる。</li> </ul>	
<b>さらに推進した点</b>	
<p>コロナ禍での感染状況を踏まえながら、教務委員会を中心に、講義・実習の対面、メディア切り替えを迅速に行った。対面については密を避けるために、2つの教室のメディア回線を繋いで同時に授業を配信するなど、設備の改善も行った。令和5年4月からは、講義・実習における教室の人数制限やBSLの人数制限を撤廃し、原則対面型で実施している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>コロナの感染状況を踏まえながら、引き続きメディア授業も活用しながらカリキュラムの実施および改善を行っていく。メディア授業の有用性についてもIR部門で検証していく。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.1 プログラムの構成</b>
<b>本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>臨床実習前カリキュラムが過密である。この時期の学生が効率よく学べるように、授業内容の調整などを行うべきである。</p>	
<b>改善状況</b>	
<p>令和4年9月30日に基礎系カリキュラム改善WGを開催し、総合教育におけるコマ数の削減、基礎医学系科目間での水平統合の運用など、カリキュラムの改善を図った。その後、同年11月17日に開催した教務委員会において、カリキュラム変更案、それに伴う学則および規程改正案が承認され、令和5年度から実行している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>引き続き検討を行う。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料13 令和4年度基礎系カリキュラム改善WG議事次第</p>	

資料14	教務委員会議事次第（令和4年11月17日開催分）
資料15	令和5年度1学年時間割変更案
資料16	令和5年度カリキュラム概要案
資料17	自治医科大学学則および規程改正案

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
初年次の思考の整理、3年次の臨床推論、チュートリアルおよび症候学で分析的で批判的思考のカリキュラムを実践している。	
<b>さらに推進した点</b>	
初年次の「医科教養」科目を適宜改善し、思考の整理については、思考の表現6コマとして組み入れた。3年次のチュートリアルにおいてもEBMを用いたトレーニングを導入した。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、カリキュラムの改善について検討を行う。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料18 令和5年度教育要項「医科教養」 資料19 M3チュートリアルEBM学習資料	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
カリキュラムの中で必修科目として、医学生が主導あるいは参加する小規模な研究プロジェクトを導入すべきである。	
<b>改善状況</b>	
社会医学に関する研究プロジェクトを実施している疫学についても、環境医学と同様、実習を独立科目として評価することとした。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラムの実習表記をわかりやすくしていく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料17 自治医科大学学則および規程改正案	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	



低学年から積み上げてきた医学統計学と臨床疫学の知識を臨床実習に活用し、学生が臨床の場で EBM の手法を実践できる能力を養うべきである。
<b>改善状況</b>
EBM の手法を座学から実践まで段階的に学べるようなカリキュラムを導入中である。今年度は 3 年次のテュートリアルの中で EBM を学べるようにした。
<b>今後の計画</b>
BSL での EBM の積極的活用も含め、引き続き検討を行う。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.3 基礎医学</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを基礎医学カリキュラムに反映させることが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
将来的に必要とされる先進医療や科学研究については、2 年次の分子医学入門や病態生化学において、時代の要請に対応した新しい講義をその都度導入している。これらの先端的研究法の実践として、2 年次選択セミナーや 6 年次フリーコースチューデントドクターコースなどの選択科目にて実習を行っている。	
<b>今後の計画</b>	
推進する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料18 令和5年度教育要項「分子医学入門」	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
行動科学および医療倫理学に関して、初年次から 6 年次まで地域医療を基盤としたカリキュラムを継続的に配置していることは高く評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムに反映させることが望まれる。	
改善状況	
令和5年度より、総合教育「医科教養」に、経済学、保健医療行政、街づくりと医療等の講義を加えた。	
今後の計画	
適宜見直しを実施する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料18 令和5年度教育要項「医科教養」	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後に地域で求められる医療的責務を果たすためのカリキュラムを実践していることは高く評価できる。</li> <li>・地域医療院外実習（CBL）など出身都道府県での実習の機会を設け、卒後臨床研修との接続性を重要視している。</li> </ul>	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
診療参加型臨床実習の効果を上げるために、重要な診療科の臨床実習を適切な期間行うべきである。	
改善状況	
令和5年1月12日に開催した拡大カリキュラム評価部会、拡大カリキュラム部会において、5年次の必修BSLローテーションを診療参加型の効果が上げられ	

るように、より関係の深い科同志が近接するよう順番を変更した。
<b>今後の計画</b>
5 学年 BSL におけるシミュレーションセンターを活用した自己学習のトレーニングプログラムを整備する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料20 5学年必修BSLローテーション表

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.5 臨床医学と技能</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
患者安全に配慮し、学生に対して病院職員と同等の医療安全や感染防御の研修を検討すべきである。	
<b>改善状況</b>	
平成 26 年度より新設された 4 年次 BSL 感染症科の実習では、臨床現場における患者安全にも配慮した感染防止対策を実践的に学ぶカリキュラムが実施されている。	
<b>今後の計画</b>	
病院職員対象の医療安全講習会および感染対策講習会への学生の参加を検討する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
1・2 年次で行われている基礎医学系科目での内容調整、教育の効率化を考え、水平的統合の在り方を検討することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
1・2 年次で行われている基礎医学系科目（組織学各論と植物生理学、神経解剖学と動物生理学）の水平統合を調整し、令和 5 年度カリキュラムから導入した。免疫学についても、細菌学との同時期の講義とした。	
<b>今後の計画</b>	
適宜見直しを実施する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料18 令和5年度教育要項	
資料21 医学部カリキュラムマップ	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
カリキュラム部会の構成委員に学生の代表を含むべきである。	
<b>改善状況</b>	
<p>月1回、カリキュラム連絡協議会を開催し、学生カリキュラム委員との意見交換を行い、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。令和5年1月12日に学生カリキュラム委員を含めた「拡大カリキュラム評価部会」および「拡大カリキュラム部会」を開催し、現行カリキュラムの課題や令和5年度カリキュラムの変更等について議論した。令和5年7月18日にも、カリキュラム評価部会を学生委員も含めた形で実施した。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>今後カリキュラム部会、カリキュラム評価部会については、委員会として教務委員会と並列させ、内規に学生委員を含むことを入れる予定である。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料6 令和5年度カリキュラム連絡協議会部会員名簿          資料7 令和5年度カリキュラム委員一覧          資料22 令和4年度第1回拡大カリキュラム評価部会議事次第          資料23 令和4年度拡大カリキュラム評価部会委員          資料24 令和4年度第1回拡大カリキュラム部会議事次第          資料25 令和4年度拡大カリキュラム部会委員          資料3 令和5年度第1回カリキュラム評価部会議事次第          資料4 令和5年度カリキュラム評価部会委員</p>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
カリキュラム部会に教員と学生以外の教育の関係者を含むことが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
<p>学生自治会の全学年ごとのカリキュラム委員が出席するカリキュラム連絡協議会で、活発な意見交換や提言がなされ、医学教育センター、学事課を通じて問題解決に努めている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
関係委員会および関係WGで検討する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
6年次に出身都道府県での研修先病院で臨床実習を行う機会を設けていることは評価できる。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
臨床実習や地域医療院外実習(CBL)に関して、卒業生からの意見の聴取や各都道府県での会合により情報を得ている。	
さらに推進した点	
令和4年9月17日に第24回全国地域医療臨床教員研修会をWebで開催し、本学卒業生と意見交換を行った。また、令和5年6月5日に都道府県自治医科大学主管課長会議を3年ぶりに対面で開催し、全国都道府県と大学で活発な意見交換を行った。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料26 第24回全国地域医療臨床教員研修会日程 資料2 令和5年度都道府県自治医科大学主管課長会議次第	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
地域や社会の意見を教育プログラムの改良に活かすことが望まれる。	
改善状況	
本学が主催する地域医療フォーラムや住民シンポジウムなどは「地域や社会」と「医療」との関係性、さらには本学の使命にも関心を寄せる多様な人々と接する機会であり、そこで議論される内容は医学教育の原資となる示唆に富んでい	

る。こうした場に参加した学内教員が教育プログラムを考案している。
<b>今後の計画</b>
本年 10 月に第 16 回地域医療フォーラム 2023 を開催する予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料27 第16回地域医療フォーラム2023ポスター

## 【領域 3】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像、音声、動画を取り入れたマルチメディア型 CBT 式の総合判定試験は知識、技能に対する独自の総括的評価法として高く評価できる。</li> <li>・従前から卒業要件として技能・態度を総括的に評価する Post-CC OSCEを導入し、継続的に改良していることは評価できる。</li> </ul>	
<b>さらに推進した点</b>	
マルチメディア形式総合判定試験の記述式動画・音声付連問は、経年的に多様性・問題数を増しながらも、10年間以上安定した試験を運営できている。令和4年に続き5年度も9月にマルチメディア形式の医師国家試験を作成し、5年生を対象に実施した。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、ブラッシュアップ作業を行い、作問レベルの維持を図る。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
低学年から確実に態度評価を導入し、学生の成長を促すべきである。さらに Moodle を使った評価の導入を確実に進めるべきである。	
<b>改善状況</b>	
令和4年度のディプロマ・ポリシーの改訂に際し、3段階（①基礎医学修了まで・②臨床実習前まで・③卒業まで）のマイルストーンを設定し、Moodle上にルーブリック評価表を作成した。教務委員会で実施担当科目を選定し、令和4年7月と令和5年2月に学生全員と実習担当科目教員によるマイルストーン評価を実施し、IR部門で分析後、形成的評価として各学年担当会の教員により、学生全員に対し、令和4年10月と令和5年7月に個別面談でフィードバックを行った。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き実施する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料9 自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー 資料10 ディプロマ・ポリシーとマイルストーン 資料28 マイルストーン評価フィードバック資料 資料29 令和5年度マイルストーン評価学年会担当教員名簿	

### 改善した項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
科目別で行われている試験について、その内容を外部の専門家が検証する仕組みを作るべきである。	
<b>改善状況</b>	
医学教育センター試験評価部会において、年3回のペースで教科の本試験・再試験の評価を実施している。各科目の評価結果は、教務委員会で報告、承認の上、部会長が各科目責任者へフィードバックし改善を図っている。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料30 令和5年度医学教育センター試験評価部会名簿	

### 改善した項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
科目別で行われている試験に対する疑義を学事課や教務委員会が組織として受け取るシステムを作るべきである。	
<b>改善状況</b>	
令和5年6月に「学生からの試験問題に関する疑義の取扱いについて」を作成し、学事課および教務委員会が入って、科目責任者と独立して判断するシステムを構築した。	
<b>今後の計画</b>	
適宜見直しを実施する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料31 学生からの試験問題に関する疑義の取扱いについて	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
新しい評価法としてマルチメディア型 CBT や Moodle を活用した評価を導入している。	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。令和4年、5年9月にマルチメディア型の国家試験を作成し、5年生を対象に実施した。	



<b>今後の計画</b>
継続する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

**今後改善が見込まれる項目**

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
総合判定試験以外の各科目試験の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
医学教育センター試験評価部会において、年3回のペースで教科の本試験・再試験の評価を実施している。各科目の評価結果は、教務委員会で報告、承認の上、部会長が各科目責任者へフィードバックし改善を図っている。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料30 令和5年度医学教育センター試験評価部会名簿	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
評価の公平性・透明性を高めるために外部評価者を活用することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
カリキュラム評価部会において、IR部門を活用し、科目間の成績評価について比較検討を行っている。評価指標については、試験、実習点の配点割合など、教育要項において各科目が公表している。「不可」評価については、年度末の進級判定会議において、各科目責任者から直接説明を聞いている。令和5年度からマイルストーン評価の個別フィードバック面談の際に、学年の担当教員から、成績評価についても配布している。	
<b>今後の計画</b>	
評価の公平性・透明性を高めるための外部評価について継続して検討していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学修との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学修成果を測定するために各科目における学習内容や評価の情報を大学全体として組織的に管理し、それを包括的に評価する体制を構築すべきである。	
<b>改善状況</b>	
学習内容や評価情報については、令和元年度に教育要項を電子化し、令和2年度に電子シラバスを導入して組織的に管理している。	
<b>今後の計画</b>	
令和6年度からの新しいコア・カリキュラムの導入に伴い、カリキュラムとの紐付けをFDを通じて教員に呼びかけ、順次変更予定である。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料32 医学教育モデル・コア・カリキュラムの解説 (FD資料)	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学修との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学生一人ひとりが自分の学習進度を認識し、学習意欲を刺激する評価法の導入を検討すべきである。	
<b>改善状況</b>	
令和4年7月と令和5年2月に学生全員と実習担当教員によるマイルストーン評価を実施し、IR部門で分析後、学年担当の教員が形成的評価として学生全員に対し、個別面談で両者を比較してフィードバックを行った。	
<b>今後の計画</b>	
有効性について検証しながら、引き続き実施する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料28 マイルストーン評価フィードバック資料	
資料29 令和5年度マイルストーン評価学年会担当教員名簿	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学修との関連</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
基本的な知識の修得と科目を越えた統合的学習を促進するために、適切な試験の回数と評価方法を検討することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
医学教育センター試験評価部会において、教育の専門家が定期試験・再試験の	

評価を実施している。
<b>今後の計画</b>
今後、試験の回数・評価方法、実習の評価方法も検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

## 【領域 4】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の使命に沿ってディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが定められ、これらとアドミッション・ポリシーとの関連が明確に示されている。</li> <li>・社会の要請に対応し、アドミッション・ポリシーを定期的に見直している。</li> </ul>	
さらに推進した点	
ディプロマ・ポリシーについては、令和3年度にカリキュラム・ディプロマポリシー検討WG及び教務委員会において点検・評価し、パブリックコメントを経て令和4年4月に改訂した。アドミッション・ポリシーについては、試験方法変更を機に、令和2年4月に改訂した。	
今後の計画	
定期的に見直しを行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料9 自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー 資料33 自治医科大学医学部アドミッション・ポリシー	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.2 学生の受け入れ
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
地域医療や社会からの要請に応え、学生の受け入れ数について、他の教育関係者（地域医療に関連する関係省庁連絡会議）と協議して定期的に見直している。	
さらに推進した点	
都道府県に対する増員希望の調査結果を踏まえて、令和5年8月28日の理事会において、令和6年度の医学部医学科収容定員を引き続き123名に増員することについて審議・了承した。	
今後の計画	
学生の受け入れ数と特性については、関係省庁、都道府県を含む関連分野の協議者とも密接な連携を図り、収容定員の決定を行う。	
改善状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
-------	-------------------

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Students' Mentor System（学年担任制度）、学習支援部会、学生生活支援センターなどの学習支援・学生支援制度が整備されていることは評価できる。</li> <li>・Big Brothers and Sisters system および寮生活での学生同士の支援が機能していることは評価できる。</li> </ul>
<b>さらに推進した点</b>
<p>新型コロナウイルス感染症の影響下で密を防ぐ制限を設けながらも、無事に継続できた。昨年度から再開したBBS（Big Brothers and Sisters system）キャンプについては、令和5年4月22日から23日にかけて学外施設で実施した。新入生の横の繋がりとお上級生の縦の繋がりをも強めることができた。</p>
<b>今後の計画</b>
継続する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料34 BBSキャンプ日程表

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.3 学生のカウンセリングと支援</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の使命に基づき、教育プログラムにおいて初年次から卒業時まで継続して行われるキャリアガイダンスや卒業後指導委員会によるキャリアプランニング支援が行われていることは高く評価できる。</li> <li>・都道府県人会やBig Brother and Sister Systemなどがキャリアガイダンス機能を果たしている。</li> </ul>	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.4 学生の参加</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>学生の代表が正式委員として使命の策定、教育プログラムの策定・管理・評価および学生に関する諸事項を審議する委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。</p>	

<b>改善状況</b>
月1回、カリキュラム連絡協議会を開催し、学生カリキュラム委員との意見交換を行い、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。令和5年1月12日に学生カリキュラム委員を含めた「拡大カリキュラム評価部会」および「拡大カリキュラム部会」を開催し、現行カリキュラムの課題や令和5年度カリキュラムの変更等について議論した。令和5年5月25日、6月22日に学長・学生懇談会を開催し、学長・副学長を含めた教員と各種学生団体の代表との間で、学習方法や学生生活等について多岐に渡り意見交換を行った。
<b>今後の計画</b>
カリキュラム部会、評価部会については、委員会への変更を進めている。内規では、学生代表を正式委員とする予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料6 令和5年度カリキュラム連絡協議会部会員名簿 資料7 令和5年度カリキュラム委員一覧 資料22 令和4年度第1回拡大カリキュラム評価部会議事次第 資料23 令和4年度拡大カリキュラム評価部会委員 資料24 令和4年度第1回拡大カリキュラム部会議事次第 資料25 令和4年度拡大カリキュラム部会委員 資料35 令和5年度学長・学生懇談会次第

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.4 学生の参加</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
学生のボランティア活動や国際的な交流を支援していることは評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
新型コロナウイルス感染症の影響で一時中止していたが、令和5年度よりフリーコース・スチューデントドクター制度での海外BSLや、海外からの見学学生の受け入れを再開した。	
<b>今後の計画</b>	
新型コロナウイルス感染症の状況をみながら継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

## 【領域 5】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の教育病院の指導者を対象とした FD を定期的に行っていることは評価できる。</li> <li>・各都道府県から顧問指導委員・学外卒業指導委員を集め、合同会議を開催し学生指導に関する FD 活動を行っていることは高く評価できる。</li> </ul>	
さらに推進した点	
令和 4 年 10 月 8 日に自治医科大学顧問指導・学外卒業指導委員合同会議を開催し、顧問指導委員と学外卒業指導委員との交流、連携を図った。	
今後の計画	
医学部教員 FD については、年度末までに 5 回開催予定である。また、今年度の自治医科大学顧問指導・学外卒業指導委員合同会議は、10 月 14 日に開催する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料12 自治医科大学顧問指導・学外卒業指導委員合同会議日程表 資料36 2023年度医学部FD実施予定表	

### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育資源としてカリキュラムの主要な構成要素ごとに十分な教員が確保されていることを担保するために、各教員のエフォート率を大学が組織的に管理すべきである。	
改善状況	
現在では Moodle によって医学部のカリキュラムが電子化されたため、各教員の貢献が把握できるようになった。令和 4 年度より、働き方改革の一環として勤務時間がシステム管理されるようになった中、教務委員会を中心に関係部署において、各教員の教育・診療・研究におけるエフォート率を組織的に管理するための検討を開始した。	
今後の計画	
将来的に教員エフォートを集計・評価する方法を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教員一人ひとりがどのような教育活動を行っているかをデータとして集め、診療、研究だけでなく、教員の教育活動への評価を行うべきである。	
改善状況	
教務委員会において、各教員のエフォート収集方法の検討を開始した。	
今後の計画	
将来的に教員エフォートを集計・評価する方法を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
全ての教員がカリキュラム全体を理解できるよう、教員支援を行うべきである。	
改善状況	
今年度の医学部教員 FD は全 8 回の開催を予定しており、8 月までに 3 回開催した。新コアカリキュラムの導入に先立ち、カリキュラムとの関連に関する FD を実施した。	
今後の計画	
FD については、適宜開催予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料36 2023年度医学部FD実施予定表 資料32 医学教育モデル・コア・カリキュラムの解説 (FD資料)	



## 【領域6】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
大学から学外臨床トレーニング施設に教員が派遣され、学生の臨床実習の指導を行っている。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が臨床実習で経験する患者数と疾患分類を把握すべきである。	
改善状況	
令和4年度に学生がBSL中に経験した症例・疾患や医行為をMoodle上で記録するためのフォームを構築し、4年生から入力を開始した。令和5年度は、4・5年生を対象に入力を行っている。	
今後の計画	
入力結果に基づき、附属病院における臨床実習で経験する疾患について、データ解析を行う予定である。入力については、学生の協力を呼びかけていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料37 Moodle症候・疾患・医行為入力画面	

### 改善した項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
メディカルシミュレーションセンターで学生が経験する臨床技能トレーニング内容を把握すべきである。	
改善状況	
令和元年度より、メディカルシミュレーションセンターに学生が同センターを利用して行った学習記録を保存するシステムを導入し、管理している。令和5年	

7月7日に「第1回臨床系（BSL・臨床講義）カリキュラム改善WG」にて、5学年BSLにおけるシミュレーションセンターを活用した自己学習の導入について素案を審議し、7月20日に開催した教務委員会において報告した。
<b>今後の計画</b>
シミュレーションセンターを活用したトレーニングプログラムを整備する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料38 第1回臨床系（BSL・臨床講義）カリキュラム改善WG議事次第 資料39 5学年BSLにおけるシミュレーションセンターを活用した自己学習案 資料5 教務委員会議事次第（令和5年7月20日開催分）

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.2 臨床実習の資源</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学修成果に学生が到達するために、経験すべき患者数と疾患分類を観点にどのような臨床トレーニング施設を確保すべきかを検討すべきである。	
<b>改善状況</b>	
4・5学年BSLを対象に、学生がBSL中に経験した症例を単位レポートと連結して記録するシステムを構築した。併せて、BSL中に経験した症候・疾患・医行為について記録するシステムを用意し、診療科ごとに入力を促している。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、学生の経験した症例・疾患や医行為の記録等を分析し、臨床トレーニング施設の検討を行う。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料37 Moodle症候・疾患・医行為入力画面	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.2 臨床実習の資源</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生の臨床実習の内容が臨床トレーニング用施設により影響されるため、現在使用している臨床トレーニング用施設がその地域住民のニーズに込えているかを評価し、学生の臨床経験が不足する場合は複数の別の施設も教育に利用するなど検討することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の院外実習を一部制限していたが、今年度から4・5学年の全実習科目において院外実習を再開した。 また、4・5学年BSLを対象に、学生がBSL中に経験した症例・疾患や医行為を記録するシステムの運用をこれに併せて開始した。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、学生の経験した症例・疾患や医行為の記録等を分析し、臨床トレー	

ニング施設の妥当性の検討を行う。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料37 Moodle症候・疾患・医行為入力画面

#### 改善した項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
情報通信技術の使用倫理規定を整備すべきである。	
<b>改善状況</b>	
平成 31 年 4 月に策定した「情報通信技術使用倫理規定」については、毎年 4 月に実施している教務委員会オリエンテーションにおいて全学生に周知し、学生便覧に掲載して学生に配布している。また、Moodle 上にて令和 3 年度より、教職員が毎年実施しているものと同様の情報セキュリティ研修を学生にも提供している。	
<b>今後の計画</b>	
規定の周知、研修会の受講を促すとともに、規定の順守を徹底させる。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料40 自治医科大学情報倫理規程	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
大学附属病院での臨床実習では全学生に PHS だけでなく iPad を配布し、臨床実習環境を整備している事は評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
学生が個人で iPad を所有するようになり、一部の希望者に貸与している。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
診療参加型臨床実習の確立のために、学生が医師の診療の補助に役目を果たせるよう、電子カルテの運用方法を検討することが望まれる。	

<b>改善状況</b>
学生用電子カルテがあるが、カルテチェックに教員の労力がかかりすぎるため、実際には利用されていない。
<b>今後の計画</b>
電子診療録の運用を病院側と検討する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.5 教育専門家</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
医学教育の専門家がカリキュラム開発、指導および評価方法の開発に活用されている。	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

## 【領域 7】

### 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学修成果を観点に学生の学習進捗をモニタし、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩を分析し、現行カリキュラムでの課題の設定を行い、教育プログラムの改善をすべきである。	
<b>改善状況</b>	
学習態度も含めた学修成果を 3 段階のマイルストーン評価で、全学生に対し定期的にモニタリングするシステムを令和 4 年度より立ち上げた。令和 5 年 7 月 18 日に開催した教務委員会の下部組織であるカリキュラム評価部会において、学生委員も交えて、IR 部門で解析したマイルストーン評価について、意見交換、今後の実施について検討した。併せて、学生全員によるカリキュラム評価アンケート結果例を供覧した。これらを科目責任者へ還元し、現行カリキュラムの改善に役立てる予定である。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム改善 WG 等で検討し、10 月までに令和 6 年度カリキュラムを作成する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料3 令和5年度第1回カリキュラム評価部会議事次第 資料4 令和5年度カリキュラム評価部会委員 資料8 カリキュラム評価アンケート（講義・実習・演習） 資料9 自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー 資料10 ディプロマ・ポリシーとマイルストーン 資料28 マイルストーン評価フィードバック資料	

### 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、カリキュラム部会と教務委員会に提言するシステムを早急に構築すべきである。	
<b>改善状況</b>	
マイルストーン評価、成績評価、学生・教員によるカリキュラム評価は、全て IR 部門に集積され、解析されている。令和 5 年 1 月 12 日に拡大カリキュラム評価部会を開催し、IR 部門で行った 5 学年 BSL カリキュラムにおける BSL 班と総合判定試験結果の分析をもとに、カリキュラム改善および問題点を整理し、その	

<p>結果を同日に開催した拡大カリキュラム部会において協議し、令和5年1月19日に開催した教務委員会で報告するとともに、次年度カリキュラムの変更に役立てた。カリキュラム評価部会→カリキュラム部会→教務委員会によるPDCAシステムが回っている。令和5年度についても、7月18日にカリキュラム評価部会を開催した。</p>
<p><b>今後の計画</b></p> <p>カリキュラム評価部会とIR部門との連携を強め、マイルストーン評価も含めた更なる解析を実施していく。部会については、委員会として教務委員会から独立させる予定である。</p>
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p> <p>資料22 令和4年度第1回拡大カリキュラム評価部会議事次第  資料24 令和4年度第1回拡大カリキュラム部会議事次第  資料41 教務委員会議事次第（令和5年1月19日開催分）  資料3 令和5年度第1回カリキュラム評価部会議事次第</p>

**今後改善が見込まれる項目**

<p><b>7. 教育プログラム評価</b></p>	<p><b>7.1 教育プログラムのモニタと評価</b></p>
<p><b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b></p>	
<p><b>改善のための示唆</b></p> <p>IR部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果および社会的責任について包括的に評価することが望まれる。</p>	
<p><b>改善状況</b></p> <p>学修成果に対する3段階のマイルストーン評価を、経時的に蓄積させるシステムが始動したことで、長期間で獲得される成果についても評価が可能となる。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p> <p>引き続きIR部門において分析を行い、カリキュラムの包括的評価に努める。</p>	
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p> <p>資料10 ディプロマ・ポリシーとマイルストーン  資料28 マイルストーン評価フィードバック資料</p>	

**今後改善が見込まれる項目**

<p><b>7. 教育プログラム評価</b></p>	<p><b>7.2 教員と学生からのフィードバック</b></p>
<p><b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b></p>	
<p><b>改善のための示唆</b></p> <p>IR部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、プログラム改善に資することが望まれる。</p>	
<p><b>改善状況</b></p>	

<p>マイルストーン評価、成績評価、学生・教員によるカリキュラム評価は、全て IR 部門に集積・解析され、カリキュラム評価部会での提言を、カリキュラム部会でのカリキュラム改善につなげる PDCA サイクルが 3 巡目に入っている。</p>
<p><b>今後の計画</b></p>
<p>より多くの情報を活用し、カリキュラム改善につなげられるシステムを確立していく。部会については、委員会として教務委員会から独立させる予定である。</p>
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p>

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<p><b>7. 教育プログラム評価</b></p>	<p><b>7.3 学生と卒業生の実績</b></p>
<p><b>基本的水準 判定：適合</b></p>	
<p><b>特記すべき良い点（特色）</b></p>	
<p>卒業生の実績を分析し、課題に対応していることは高く評価できる。</p>	
<p><b>さらに推進した点</b></p>	
<p>継続中である。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p>	
<p>継続する。</p>	
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<p><b>7. 教育プログラム評価</b></p>	<p><b>7.3 学生と卒業生の実績</b></p>
<p><b>基本的水準 判定：適合</b></p>	
<p><b>改善のための助言</b></p>	
<p>IR 部門が学生の実績のデータを収集し、そのデータをもとにカリキュラム評価部会が使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供を分析すべきである。</p>	
<p><b>改善状況</b></p>	
<p>IR 部門において、マイルストーン評価結果を学生・担当教員から収集している。併せて、学生によるカリキュラム評価、臨床実習における経験症例等のデータについても、本格的な情報収集を開始した。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p>	
<p>IR 部門における学生の実績データをもとに、カリキュラム評価部会において使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供についても分析する予定である。</p>	
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p>	
<p>資料28 マイルストーン評価フィードバック資料 資料8 カリキュラム評価アンケート（講義・実習・演習） 資料37 Moodle症候・疾患・医行為入力画面</p>	

良い点・特色ある点として評価された項目

7. 教育プログラム 評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
卒業生に関するデータ収集を行っていることは評価できる。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
卒業生に関わるデータ収集の内容についても、今後吟味する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料42 自治医科大学医学部卒業生の現状	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生に関してもその実績のデータ収集を行い、責任ある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。	
改善状況	
実績データを IR 部門に集約し、教務委員会、学生委員会、学生寮生活サポートセンター運営会議、医学教育センター、学生寮生活サポートセンターへフィードバックしている。	
今後の計画	
引き続き、学生に関する実績データを IR に集積・解析し、関連する委員会へ還元していく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム評価部会に学生が参加し、プログラム評価すべきである。	
改善状況	
月1回、カリキュラム連絡協議会を開催し、学生カリキュラム委員との意見交換を行い、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。令和5年1月12日に学生カリキュラム委員を含めた「拡大カリキュラム評価部会」「拡大カリキュラム部会」、7月18日に「カリキュラム評価部会」を開催し、現	



行カリキュラムの課題や評価について議論した。
<b>今後の計画</b>
カリキュラム評価委員会の設置規定で、学生委員を含める予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料6 令和5年度カリキュラム連絡協議会部会員名簿
資料7 令和5年度カリキュラム委員一覧
資料22 令和4年度第1回拡大カリキュラム評価部会議事次第
資料23 令和4年度拡大カリキュラム評価部会委員
資料24 令和4年度第1回 拡大カリキュラム部会議事次第
資料25 令和4年度拡大カリキュラム部会委員
資料3 令和5年度第1回カリキュラム評価部会議事次第
資料4 令和5年度カリキュラム評価部会委員

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.4 教育の関係者の関与</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
各都道府県出身者を担当する教員や地域医療院外実習（CBL）の担当教員から卒業生の実績がフィードバックされていることは評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.4 教育の関係者の関与</b>
<b>基質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生に関してもその実績のデータ収集を行い、その評価結果を他の関連する教育の関係者に閲覧し、カリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
学長補佐会議において、教務委員長より年2回、学生の成績関係について報告を行い、教育の関係者との情報共有を図っている。医学教育センター教員が中心となって、他大学の医学教育専門家と情報交換ならびに学習の機会を設けている。	
<b>今後の計画</b>	

学生の実績や評価結果について、教育関係者のフィードバックを求めていく。

**改善状況を示す根拠資料**

## 【領域 8】

### 今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育にかかわる委員会や部門の権限分離や役割分担を明記すべきである。	
改善状況	
「自治医科大学医学部学生員会等設置規程」の中に、各委員会の具体的な権限内容を明記した改定案を作成中である。	
今後の計画	
令和5年度中に「自治医科大学医学部学生関係委員会等設置規程」の改定を行う。	
改善状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
47都道府県の意見を定期的に聴取し、教育の管理運営に活かしている。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統轄および管理運営	8.2 教学における執行部
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
学長・医学部長のリーダーシップの責務が明確に示されている。	
さらに推進した点	
ガバナンスコードを作成、HPに公開した。ガバナンスコードの遵守状況は毎年確認し、大学HPに公表している。	
今後の計画	
適宜見直しを行う。	
改善状況を示す根拠資料	

## 今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.2 教学における執行部
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
医学部の使命と学修成果を観点に教学におけるリーダーシップを評価する仕組みを改善することが望まれる。	
改善状況	
「自治医科大学内部質保証の方針」のもとに、医学部においても教学の内部質保証システムが明確に示され、年2回の事業チェックが行われ、次年度の事業計画に反映されている。	
今後の計画	
教学における内部質保証を適切に実施するため、医学部長を長とした教学関連統括会議組織の規程化を検討中である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料44 自治医科大学内部質保証の方針	

## 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統轄および管理運営	8.3 教育予算と資源配分
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
顧問指導・学外卒業後指導委員合同会議、都道府県自治医科大学主管課長会議からの意見を聴取し、資源の配分にあたり考慮している。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

## 今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
国の高等教育政策や私学助成に関する情報を収集し、教育管理運営に活かすべきである。	
改善状況	
経常費補助金教育の質に係る客観的指標調査を行い、検証・改善に取り組んで	

いる。
<b>今後の計画</b>
引き続き改善に取り組む。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>8. 統轄および管理運営</b>	<b>8.4 事務と運営</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
使命に沿った教育プログラムの遂行が適切に行えるよう、管理運営組織の定期的な内部質保証の仕組みを拡充することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
大学基準協会の第3期認定評価を受審し、内部質保証についてのシステム及び規定について改善した。特にチェック機構については、全体作業部会を独立させ、下部組織の各部門作業部会において、医学部等の大学の年次事業計画実施の評価を分担して行っている。	
<b>今後の計画</b>	
医学部における教学の内部質保証システムのPDCAの確実な運用に向けて、部門作業部会の実質的な統括組織として、教学関連統括会議組織の規定化を検討中である。現状教務委員会に属するカリキュラム部会、カリキュラム評価部会については、教務委員会から独立させて委員会とする予定である。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>8. 統轄および管理運営</b>	<b>8.5 保健医療機関との交流</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべき良い点（特色）</b>	
顧問指導・学外卒業後指導委員合同会議、都道府県自治医科大学主管課長会議を通じて定期的に全国の地域医療を担う医師や行政部門、保健医療関連部門と意見交換を行い、建設的な交流を継続していることは高く評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療機関との交流
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各都道府県に臨床教員を配置し、地域における臨床実習の調整等を依頼している。</li> <li>・学生は、6年次に行われる都道府県拠点病院実習における臨床実習を通じて、全国の保健医療関係部門のスタッフからの指導を受けていることは評価できる。</li> </ul>	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

## 【領域 9】

### 今後改善が見込まれる項目

<b>9. 継続的改良</b>	
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
IR 部門が評価に有用なデータを収集した後、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、教務委員会に提言することで、教育プログラムが確実に改善されるシステムを実働させるべきである。	
<b>改善状況</b>	
令和 5 年 1 月 12 日に拡大カリキュラム評価部会を開催し、IR 部門で行った 5 学年 BSL カリキュラムにおける BSL 班と総合判定試験結果の分析をもとに、カリキュラム改善および問題点を整理し、その結果を同日に開催した拡大カリキュラム部会において協議し、令和 5 年 1 月 19 日に開催した教務委員会で報告した。令和 5 年 7 月 18 日にカリキュラム評価部会を開催し、カリキュラム評価部会→カリキュラム部会→教務委員会による PDCA システムが 3 巡目に入っている。	
<b>今後の計画</b>	
現状教務委員会に属するカリキュラム部会、カリキュラム評価部会については、教務委員会から独立させて委員会にする予定である。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料22 令和4年度第1回拡大カリキュラム評価部会議事次第 資料24 令和4年度第1回拡大カリキュラム部会議事次第 資料41 教務委員会議事次第（令和5年1月19日開催分） 資料3 令和5年度第1回カリキュラム評価部会議事次第	